

2022/5/22

(うとQ世話し 3週間投稿記事が書けなかった事で生まれた「瓢箪から駒」モドキ)
書庫版



「もはやおいしいだけじゃダメだ。何か新しいものを生み出さないと」
それが前回、もう3週間ほども前になりますが「うとQ世話し」の結論でした。
その具体的な方策として

- ① 教科書ができる中身ができた。
 - ② 外国人従業員の子供たちが本国からやってくる。
 - ③ 我が国の若い人たちも「肩書やお免状」よりも「中身だ」とうすうす気づき始めている。
- 等の諸要因から

ならば4年と少し前に構想を抱いた「国際間、世代間、たまたま隣に居合わせた人との交流
事業」の具体形として「カレーを食べながらへたっぴい同士教えっこしあう」

「英語教室」を始めようというお話で締めくくらせていただきましたが、3週間字が見えに
くい理由からほとんど投稿をしない間に自分の心の中での具体策が変わってきました。

それは

「Easily understandable and speak-able Japanese Language school」

(邦訳：分り易く喋り易い日本語教室)

つまり日本人に英語を教えるより先に外国人に日本語を教えようと、順番を逆転させるに
至ったのです。

それは何故か？

その答えは

「日本人が英語を話すことを必要とするより外国人が日本語を話せることを必要としてい
る度合いが遥かに強い事」を身に染みて感じたからです。

そして

「彼らは食らいついてくる」

からです。

われわれ日本人が抱きがちな英語学習の深層目的「英語を話せるとインテリに見てもらえ
るとかカッコいいから」といったようなもので自分が納得いかないものだからです。

彼らの目的は偏に「生活の為。生きていく為。生き抜く為」という極めて切実なもので自分
も納得できるものだからです。

なので、

「先ずはそれ応えるのが当事業の本姿であり自分の趣旨に副うものあろう」

という事に。

しかし何を指して Easily understandable and speak-able と言っているのか？何が今までの
NPO などの日本語教室と違うのか？

それは、

① 日本語検定2級などのライセンス取得を第一とせず、実際に「話して暮らせる」事を第
一義とする。

もっと絞り込んだ言い方をすると子供を起業家として育てる（語学習得に関しては、雇用希
望者には日本語検定2級が求められますが、起業家は話すスキルとノウハウという actual
があればいいだけだからです）

② 字ではなく音から入る（具体的には平仮名、カタカナ、漢字と分けずにすべてローマ字
表記から入る）

③ 全て原義から入る（何故そういう謂い方をするのか？その字はどうして生まれたのか？
等、日本人の発想法や文化を教える）

等です。

むろん日本人向けの英語教室を諦めた訳では毛頭ありません。

何しろ最後の目的の一つには「多くの日本人が英語を話せるようになる事」をも掲げている
からです。

しかしこちらは現時点では skype (youtube ではなく対面の skype 形式) を用いたオンライ
ン授業にしようかと考えております。